

2022/11/24

トバックテ、発色液を撮影して力得。画像解色強度を読濃度を算出用がからり、うま向上を進め

酸をはじめ、アミノ酸のつては、ポ導体化イオトグラフ、マトグラフ法が汎用さ精度な分析半面、煩雑額な大型分かせない。うより身近に準立したこと品質管理や仕への展開なるとみてい

**照準**

日光ケミカルズがイタリアのフィレンツェ大学と共同研究している文化財修復の活動が、欧州連合（EU）の研究助成プログラムである「ホライズン・ヨーロッパ」に採択された。「GREENART」文化財修復へのクリーンケミストリーの適用」というテーマで3年間の研究助成を受け、同社はプロジェクトの一員として文化財修復活動を推進していく。

同社は「ニオン界面活性剤をベースに、絵画やストリートアートに付着した汚れを選択的に除去する研究をフィレンツェ大学と進めてきた。関連する論文はアメリカ化学会で掲載されるなど、海外からも高い評価を獲得。今後は芸術界への貢献と技術を生かす

日光ケミカルズ E U の研究助成に採択

たビジネスも検討している。今回採択されたホライズン・ヨーロッパは、日本の「ムーンショット型研究開発制度」に相当する研究とイノベーションにおけるEUの主要な研究助成プログラム。重要な課題に対する優れたソリューション提供、EUの政策優先事項の支援などを目的としている。

同プログラムにおけるGREENARTプロジェクトは、日光ケミカルズをはじめ、フィレンツェ大学、メトロポリタン美術館、イタリア芸術会議など計27のパートナーで構成。日光ケミカルズは日本企業で唯一参画し、高機能性界面活性剤の提供や界面化学的構造解析を中心に行い、修復活動の推進を目指す。

るなか、健康食品市場は成長を続けている。理想的なカラダづくりのサポートを後押しし、販売拡大を目指す。

新ブランド名は「X（エックス）」。日常活動時による体脂肪対策を訴求する「X2 BURNDOWN」

脂肪対策を狙った「X4 SLIM」を2023年2月に発売する。いずれも60粒入り（約30日分）で価格は4980円。飲みやすさと溶けやすさを両立した特殊コーティングを採用した。自社オンラインショップ



2022/11/25

32・85㎡。冷蔵・冷凍倉庫や自動倉庫を備え、全体で従来の2倍の能力を備え

【画像参照】を1棟（画像参照）をルスキングア新製イフは多岐にわたるなるタイプのフェマスク（シートまたは）が1%でトッとなった。レチノール%、ヒタミンC（12%）、CBD（8%）をアフェイスナルスキア製品を、強い成分トリーを持つ製品がいた」として、「試した人の56%が『もう一度うて答え、32%が再入する可能性がある』回答した。試した新製への不満は低く、わずか3%であった」と述べている。

（次号に続く）ニココスメックス&トイレタリー（誌より）

## 欧州の環境活動を支援

### 文化財修復活動が大型プロジェクトに

### 日光ケミカル 高機能界面活性剤を提供

日光ケミカルズ（東京都中央区、中原秀之社長）は11月15日、同社がかねてフイレンツェ大学と共同で研

究を進めている文化財修復活動が、気候変動や持続可能な開発目標などに関わるEU（欧州連合）の大規模な研究助成プログラム「Horizon Europe」に採択されたことを発表した。

「今回、『GREEN ART（GREEN ENDAVOR IN ART RESTORATION）文化財修復へのグリーンケミストリーの適用』というテーマで3年間の研究助成が採択されたことを受け新たにGREEN ARTプロジェクトを開始。今後は世界的なプロジェクトとして活動がさらに加速され、当社もプロジェクトの一員として文化財修復活動

を推進していく」（同社）。GREEN ARTプロジェクトは、再生可能な天然資源やリサイクルされた廃棄物から得られる環境に優しく且つ影響の少ない材料を用いて、欧州グリーンディール要件に準拠する安全で効果的・持続可能な文化遺産の修復・保全ソリューションを生み出すことを目的とする大規模プロジェクト。同社をはじめ、フイレンツェ大学、メトロポリタン美術館、イタリア芸術会議など27の企業・団体が構成されている。日光ケミカルズは、同プロジェクトに高機能界面活性剤の提供をはじめ、界面化学的構造解析など同社化成事業部を中心に参画している。



2022/11/28

## 日光ケミカルズ、色材協会からサステナ関連賞を受賞

【化学工業日報 2022/11/29 4頁 272字】

日光ケミカルズ、色材協会からサステナ関連の賞を受賞 10月に開催された色材協会創立95周年記念会議で「Sustainability Research Award」をイタリアのフィレンツェ大学と共同受賞した。界面化学分野の世界的権威である同大学のピエロ・バリオーニ教授と同社化成品事業部の小倉卓事業部長らが共同で「界面活性剤を用いた絵画の修復」について発表し、最も優れた論文およびプレゼンテーションとして同賞を受賞。色材協会は国内唯一の色材に関する学術団体で、顔料や塗料、印刷インキ、化粧品、文具など幅広く色材に関する研究を行い知識の普及に努めている。